



Est. 1912

まこと館だより

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局



100号記念特集

第 100 号を記念して、今までのまこと館だよりを振り返り、稲永理事長と橋本相談役からお祝いのメッセージをいただきました。

稲永理事長からメッセージ



「まこと館だより」は、この 11 月に 100 号記念を迎えます。2015 年に策定された「新しい明日、新たなステージ 2025 年を目指して」という法人中長期基本計画のもと、その年の 7 月に全職員向けの情報・コミュニケーションツールとして創刊されました。当時の理事長は 7 代目の高橋利一氏から 8 代目の橋本正明氏に交代し、橋本前理事長が執筆した巻頭言「埋め草」は、多くの読者に愛されました。

「まこと館だより」は、法人の一体感を醸成し、社会福祉法人改革の課題に取り組む中で重要な役割を果たしてきました。現在、法人中長期基本計画も 3 期目の 3 年目を迎え、新たな中期計画の策定が進められています。未達成の計画を整理し、新たな社会課題にも対応することで、社会に貢献できる法人を目指していきます。皆さんの笑顔が輝く未来を願って、これからも「まこと館だより」をよろしく願いいたします。

(至誠学舎立川 理事長 稲永勝行)

橋本相談役からメッセージ



まこと館だより 100 号に寄せて

2015 年に発行を始めた「まこと館だより」が 100 号になる事、今思いを新たにしています。私が理事長になって強く意識したことは法人のまとまりを強くしたいという思いでした。具体的には法人事務局の強化、規程類の一本化、社会保険の統一化、法人合同行事の開催、財務の事業本部間支え合い、法人としての紀要の発行等をすすめました。そして法人職員の意識への働きかけのとしてこのまこと館だよりを発行することにしたのでした。

一番の成果は橋本良市・富美子氏によって 1951 年、戦前の少年寮を改装して開設した至誠老人ホーム跡地を法人として購入、そこに児童事業本部の事業として障害者施設「まことプラザ」が出来たことです。法人が主導して事業本部間の壁を乗り越えた新しい事業となったことに大きな意義を感じています。本年 8 月に 103 歳で他界した故橋本富美子元和光ホーム園長がまことプラザの開所式に出席し喜んでくれたことを今でも嬉しく思っています。これからも「まこと館だより」が法人職員の心を繋いでくれる事を強く念じております。

(至誠学舎立川 前理事長 橋本正明)

～過去のまこと館だよりから～

【橋本 正明相談役（発行時：至誠学舎立川理事長）】 2015年7月号（まこと館だより第1号）

理事長 うめ草①

理事長に就任して考えたこと。それは先ず法人各現場の状況を把握した上で、事業本部の力を法人に結集することだと思ひ至りました。現在の法人運営方式である3事業本部制を基盤としながら、事業本部間の融和・連帯の意識を醸成し、法人の一体性を確立すること、これが私に与えられた役割・使命だと思っています。

高橋利一前理事長が残してくださった法人中長期基本計画「新しい明日 新たなステージへ 2025年を目指して」と「法人本部・研修センター」はソフト、ハード両面で私たち、受け継いだ世代の大きな財産です。これを生かし、歩いていくことでこの目標を達成出来るのだと思います。

至誠学舎立川は、その歴史、組織から、そして事業自体からも大きなエネルギーを発散しています。それは時に人を疎ませ、萎縮させます。法人の中にいると気が付かないことも、外からその大きさ、重さを指摘されて驚かされることもあります。そんな時には先ず深呼吸をして足元を見つめましょう。自分自身は小さな平凡な人間です。でも逆にその歴史と組織と事業が私たちを支えてくれているのです。そのことに気が付いたとき私たちは至誠の輪の中において仕事出来ることに幸せを感じるのです。居場所があり、求められる自分が居る、素晴らしい人生ではありませんか。

法人の一体感を創りあげていくツールとしてこの「まこと館だより」を発行します。皆さんが「至誠の人」であることを確認できる情報紙にしていきたいと思ひます。よろしく!!

橋本 正明

【稲永 勝行理事長】

2021年7月号（まこと館だより第79号）

理事長 就任挨拶

令和3年6月19日に開催された「至誠学舎立川第351回理事会」において、第9代理事長に選任されました稲永勝行でございます。よろしくお願い申し上げます。私は、昭和26年生まれの69歳です。立川に生まれ、至誠学舎の福祉の庭で育ちました。まだ戦後の復興期であり、立川基地の色濃い時代でした。歴代の理事長をはじめとする諸先生方の人望・人柄・人格をいつも身近に感じながら、「至誠」の多くのことを直接学ばせていただきました。それは、大切な宝物となっております。当時、至誠保育園園長であった母の後ろ姿を見て育った私は、子どもが好きでしたので自然にこの道を志しました。昭和48年に入職、当時はオイルショックで園舎改築では大変苦労した思い出があります。以来保育の道一筋で至誠保育園園長、保育事業本部本部長、法人常務理事等を兼務することを経て今日に至っております。気が付けば、約半世紀の時が流れておりました。

橋本前理事長は3期6年に亘り、法人ガバナンスの確立、社会福祉法改正を受けての法人体制の整備、また「至誠ホームアウリンコ」をはじめとする施設を作り、法人の事業を充実しました。お疲れさまでした。今後は「法人相談役」「至誠実践福祉総合研究所長」としてお力添えいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。現在当法人は職員数約1,500名、年間事業費75億円(2020年度)の規模となりました。これからも社会の期待に応え、安心安定した持続可能な事業(going concern)を組み立てて行かなければならないと思っています。それは時に苦しみを伴うものであるかもしれません。特に、事業所によっては経営面での構造的な赤字の改善は急務とするところではあります。働き方改革を進めながら人材の確保、定着、育成も喫緊の課題です。4月に開設した「至誠障害福祉総合センター」の運営を軌道に乗せ、自立的に安定させて行かなければなりません。また、コロナ禍による利用者や職員のニーズの変化に応える施設運営のあり方を再考していく必要があります。

課題は山積みでどれも大きく、微力ではありますが『まことの心のはたらきは人の心をうごかし天に通ず』の理念のもと「解決できない課題はない」と信じて、皆様のお力添えのもと共に進んでまいりたいと思ひます。

どうかよろしくお願い申し上げます。

理事長 稲永勝行

橋本相談役、稲永理事長の理事長就任時のご挨拶です。まこと館だよりを通じての熱いメッセージが感じられます。現在のまこと館だよりは、理事長をはじめ、各事業本部長、各事務局長、そして各施設の園長・施設長・センター長と様々な方面から至誠学舎立川の「今」を発信し、各事業本部の情報交換の一つとなっています。

高齡事業本部 旭 博之本部長

2015年9月号(まこと館だより第3号)

事業本部長メッセージ

6月1日理事会において橋本新理事長より常務理事の指名を受け高齡事業本部長・至誠ホーム長を拝命しました旭 博之です。昭和33年生まれ、昭和57年就職の勤続33年、57歳です。至誠ホームに就職し気が付けば30年超といったところでしょうか。



目新しいところでは、児童事業本部とのコラボによる至誠ホームミナ・並木の家の開設準備から建設・運営の責任を持ちました。開設当初は、借金と地代の負担から毎月の法人施設長会議での経営数字を見るたびに「誰か、パンシロンと太田胃酸・・・」というほどの苦しい状態でしたが、開設6年を経て、何とか体裁を保ち軌道に乗せた感があります。

また、毎日元気に市内を走る「ブルークロス」(北欧はフィンランド国旗のデザイン)をモチーフにしたホームの送迎車、あのカラーリングをした張本人が私です。2001年、至誠ホーム50周年記念の年から、新規車両に暫時導入したデザインです。あれから十数年、今では立川と国分寺はもちろん、調布でもその特徴あるデザインは至誠ホームのシンボルとして好評を博しています。

ところで、現在の介護保険制度の環境は事業所の「淘汰」を迫る様相を呈し厳しいものです。加えて、至誠ホームは新施設「アウリンコ」建設という大事業を目前に控えています。この時期に伝統と実績ある法人、施設の責任を持つのはいささか荷が勝ちすぎている気もしますが「まことの心」を肝に据え、持てる力を惜しみなく事業運営に注ぐ覚悟です。重ねてどうぞよろしくお願い申し上げます。

高齡事業本部長・至誠ホーム長 旭 博之

児童事業本部 石田 芳朗本部長

2019年7月号(まこと館だより第53号)

事業本部長メッセージ

6月15日理事会において橋本理事長より常務理事の指名を受け、児童事業本部長を拝命しました石田芳朗です。当法人に昭和63年4月に就職し、至誠学園にて31年間、うち施設長を拝命してからは12年の月日が過ぎました。入職当初から、なぜか55歳になったら早期引退して好きなことをして暮らしたい、と内々心の片隅に秘めていたのですが、社会状況は大きく未来予想を外れたこともあり、気が付けば少しばかりタイミングを見失ってしまい今年57歳になるところです。

この機にあらためて法人の全体に視野を広げてみると、一口に「福祉」といっても、そのあり様は本当に多様であることに気づかされます。日々、それぞれの現場では、人に向き合い、その声に耳を傾け、時に頭と心を悩ませながらも、目の前の「人」の幸せを思い描き行動する皆さんがいます。その一つひとつの実践に十分な「まことの心」のはたらきが行き届きますように、微力ではありますが自らの役割を果たしてまいりたいと思います。

この令和の始まりの年に、ひととき重要な役を担うことはとても重い責任を負うことではありますが、これも何かしらの運命と覚悟し、「まことの心」を掲げるところとして立場をわきまえ、皆さんと共に歩んでいく所存でございます。どうぞよろしく願いいたします。

さて、児童事業本部では、今、障害福祉サービスにおいて高橋久雄理事が担当する大きなプロジェクトが進行しています。2021年度のスタートに向けて歩みを始めました。1997年に細々と始まった障害福祉事業が、長い準備期間を経て、より社会のニーズにマッチした形で大きく展開できること、どれだけ多くの障害をお持ちの皆さんとご家族が待ち望んでいたことでしょう。これは法人にとって、大きな意義のある一歩だと思っています。この先、花咲く道だけではなく、おそろく、険しい道も多々生じてくるでしょう。でも、きっと信じた道を信頼できる人たちと精一杯に進んだその先には求めている答えが見つかると思っております。私たちの目指すことは、あらためて言うまでもなく、すべての利用者や関係する皆さんの最善の幸せを求めることです。愚直に求め、ぶれずに進める強い意志をもって臨んでいきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

児童事業本部長 石田芳朗

保育事業本部 長谷川 育代本部長

2021年9月号(まこと館だより第80号)

新常務理事就任挨拶

令和3年6月19日に開催された「至誠学舎立川第351回理事会」において常務理事の指名受け保育事業本部長を拝命いたしました長谷川育代でございます。伝統と実績のある法人で重責ではございますが稲永勝行理事長のリーダーシップのもと皆様と一緒に「まことの心」の理念に基づく福祉実践を行ってまいりたいと思っております。宜しく願いいたします。

自己紹介ですが、一応女性ですので年齢は不詳でお願いいたします。至誠に就職して勤続30年以上で、想像してください。至誠第二保育園に就職して万願寺保育園の立ち上げで異動し現在、万願寺保育園で園長も兼任しております。

保育の仕事が好きで、子どもたちの笑顔に日々励まされ、保育の環境について考え楽しくお仕事させていただいていたら30年が過ぎておりました。この間、様々な危機がありましたが、一緒に仕事をした仲間と『失敗は成功のもと』『困難+困難+楽しい=成長』この成長が私を支えてくれたような気がします。職員の皆様にも長く働き続けられ、やりがいと魅力ある職場となり、至誠学舎が居場所となるよう皆さんと考え、共に進んでまいりたいと思っております。

保育事業本部長 長谷川 育代





至誠祭り・チョコっとバザー 開催いたしました！

2024年10月19日(土)に約5年ぶりに至誠祭りを開催することができました。職員・利用者さん・協賛いただいた企業様方には心よりお礼申し上げます。



理事長の太鼓からバザーが開催されました！



児童事業本部からは北海道からたくさんのお野菜が販売 🍅 富良野直送です ✨



国分寺連さんの阿波踊りで会場を練り歩き盛り上げていただきました！



大道芸人さんを見ている保育園の園児さん ✨
いつもと違うお散歩コースで楽しめたかな 😊



(編集後記)「まこと館だより」記念すべき第100号 ✨今回は橋本相談役にも久々にご登場いただきました！これから先も長く「まこと館だより」が続くように頑張ります！(小)